

22nd International Seaweed Symposium 参加記

秋田晋吾

国際海藻会議 (International Seaweed Symposium: ISS) は、国際海藻協会 (International Seaweed Association: ISA) が主催して、3年毎に開催されます。今回、私が参加した第22回大会は2016年6月19～24日にデンマーク、コペンハーゲンの中心街にある Scandic Hotel を会場として盛大に開催されました。学会は6日間で、初日が ice breaker, 2, 3日目は基調講演および口頭とポスターの講演、4日目にエクスカージョン、5, 6日目には再び講演でした。今大会には、51ヶ国から約450人が参加し、最多は地元デンマークからでした。日本からの参加者は、東京海洋大学応用藻類学研究室からの3人(藤田大介先生と博士前期課程2年の早川雄飛氏と私)を含み17人でした。

国際学会への参加は、前回の21st ISS (インドネシア・バリ) に続いて2回目の参加であったため、不安もなく参加申し込み等をこなすことができました。発表に関しては、博士後期課程から始めたアントクメの遺伝子多様性に関する事で、登録当初はポスター発表を申し込んでいました。しかし、講演数が不足していたのか、2月頃、口頭発表にアップグレードしていいですかとの旨のメールがありました。英語力に不安があり悩みましたが、藤田先生の後押しもあり、口頭発表を決意しました。そこで、今回は、国際学会での初めての口頭発表を成功させることに加え、同世代の海外の研究者とたくさん交流することを目標にしました。

日本からデンマークへは直行便もありますが、私達はアムステルダムを経由しコペンハーゲンに入りました。空港には、18時頃に着陸したにもかかわらず昼間のように明

るく、日差しが強いことに驚きました。空港からは都市部へのアクセスが良く、コペンハーゲンの中心街へは電車で約20分でした。街は静かで、自転車専用の車線が整備されており、環境への意識がかなり高い国と思いました。ただ、ものすごいスピードで自転車が走っているので、間違えて自転車道を歩くと轢かれそうになります。

講演は、基調講演6題、一般講演219題、ポスター発表150題がそれぞれありました。基調講演は、どれも非常に興味深いものでした。そのなかでも世界一のレストランとして知られる noma の共同オーナー兼料理長である René Redzepi 氏の講演が面白く、研究者や海藻業界以外の方からの話題提供は新鮮でした。講演は、司会者との対話形式で進んでいき、うま味やダシの話題から、海藻の西洋料理への応用についてまで及びました。西洋料理への海藻の利用において一番の問題は、食感だそうです。欧米人は、海藻のネバネバ感が苦手なようです。noma には食材研究ラボがあるそうで、ネバネバを際立たせない方法を研究しているそうです。しかし、我々日本人にとって、ネバネバが海藻の魅力であり、ネバネバがなければ海藻本来の特徴を生かせないのではと思いました。

一般発表はホテル内の4会場に分かれて行われました。今回は、ヨーロッパでの開催であったこともあり、*Saccharina latissima* 関連の発表が多かったように思います。また、欧米の大学で研究する博士後期課程の学生が多かったと思います。彼らは、流暢な英語で堂々とプレゼンをして、質疑応答でもしっかり討論でき羨ましく思いました。一方、私は、初めての英語の口頭発表で、とても緊張しました。なんとか発表をやり遂げましたが、英語力の不足があり、質疑応答も辿々しく、もっと英語を勉強しなければなりません。

エクスカージョンでは、1) Microalgae, Kalundborg Industrial Symbiosis and the land of legends, 2) CP Kelco, biogas plant and visit to an UNESCO World Heritage, 3) Diving in Øresund / The Sound between Denmark and Sweden, 4) Seaweed and sea view from an island in Øresund /The Sound, 5) Carlsberg tour の5つからの選択式で、応用藻類学研究室から参加した3名は、全員ダイビングを選択しました。ダイビングの参加者は全員で7人でしたが、東北水研の村岡さんを含めた4人が日本人でした。ガイドが用意した車に乗り、コペンハーゲンからデンマークとスウェーデンの国境にあたるエスレンジ海峡まで移動しました。近くにはクロンボー城がありました。海岸に出ると参加者全員が、ゴミ山



講演風景

ようにまとめられていた打ち上げ海藻の山から藻体を嬉しそうに拾い上げていました。私もそうですが、どこの国の人でも、海藻の研究者には宝の山に見えるようです。ウェットスーツに着替えて器材を背負い、海に潜ると、まず *Fucus vesiculosus* と *Fucus serratus*, *Furcellaria lumbricalis* の群落で、次に *Chorda filum*, アマモの1種の群落、そして *Saccharina latissima* が生育しており、深度とともに優占種が変化していきました。また、水深9-11m付近に水温躍層があり、水深9mでは15°Cでしたが、水深11mでは9°C程度でした。底質は、泥で、イガイ類の上に、海藻が付着し生育していました。海外で、潜って植生を観察することは、日本と違った状況を観察でき、

非常にいい経験になりました。

今回の学会では、コーヒープレイク、ソーシャルイベントなどでたくさんの方と交流することができました。また、学会参加を通じて、研究者として、海藻の知識や実験技術も、もちろん重要ですが、まず英語で議論できる力が必要だと感じました。次回の23rd ISSは、2019年の4月29日から5月3日に韓国の済州島で開催されるそうです。ゴールドデンウィークなので旅費が高そうですが、是非参加したいです。次回の学会でより良い報告ができるように日々研究に励みたいです。

(東京海洋大学応用藻類学研究室)

国立科学博物館企画展

藻の見遊山

「日本の自然を世界に開いたシーボルト」

Philipp Franz Balthasar von Siebold as a pioneer naturalist of Japan

2016年9月13日(火)～12月4日(日)

2016 9/13(火) - 12/4(日)

日本の自然を世界に開いた シーボルト
 Philipp Franz Balthasar von Siebold as a pioneer naturalist of Japan

国立科学博物館 (東京・上野公園) 日本館1階企画展示室

開催期間/ 午前9時～午後5時 (金・土曜日は午後8時まで)
 (休館日は午後8時まで、入館は各閉館時刻の30分前まで)

休館日/ 毎週月曜日
 (12月24日の場合は翌日) 東大館は9月28日(月)は休館

入館料/ 一般・大学生は620円 (団体310円)
 高校生以下および65歳以上は無料

主催/ 国立科学博物館
 協賛/ 東京大学総合研究博物館
 賛助/ 東京大学東洋学研究所
 アナトリア学術センター (オズ) /
 シムラニョウ 東京大学 (ドイツ)
 フランケンシュタイン・メッセルマンアーカイブ (ドイツ)

お問い合わせ (ハローダイヤル) 03-5777-8600
 ホームページ <http://www.kahaku.go.jp/>

ドイツ生まれの若き医師であったシーボルトは、1823年にオランダ商館医として来日し、西洋世界にとって未知であった日本の動植物と鉱物を収集してヨーロッパに伝えた。植物は1万点を超える押し葉標本が採集されたが、そのなかには海藻も含まれている。

シーボルト (1796—1866) の没後150年にあたる今年、国立科学博物館では、ライデンのナチュラリス生物多様性センターなどに収蔵されているシーボルトコレクションからとりわけ重要な自然史標本を選び、「里帰り」展示を開催中である。海藻は、日本の代表的な種であるワカメ、マコンブ、カバノリを借用することができた。いずれも200年近く前に採集されたものであるが、ワカメなどはスリンハーの『アルガエ・ヤポニカエ (日本の藻類)』(1870)に描かれたままの色と形 (左図の左上) がいまでも残されており、感動ものである。是非ご来場いただきたい。

(北山太樹)

【国立科学博物館】

開館時間: 午前9時～午後5時 (金・土曜日は午後8時まで)

入館は各閉館時刻の30分前まで。

休館日: 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌火曜日)。

入館料: 一般・大学生は620円 (団体310円)。

高校生以下および65歳以上は無料。

所在地: 東京都台東区上野公園7-20

交通: JR山の手線上野駅公園口から徒歩5分。

問合せ: Tel 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

URL: <http://www.kahaku.go.jp/>